

はじめに

ITERSとは、*Infant/Toddler Environment Rating Scale*の略称で、1990年にアメリカで開発された3歳未満児（初版では2歳半）の集団保育の質を総合的に測定するスケールです。2003年に改訂版のITERS-Rが、2005年にはアップグレード版が発行されました。本書はそれに続くもので、2003年の改訂版以来の大きな改訂版である第3版、つまりITERS-3の日本語訳です。

ITERS-R（2003）の日本語訳『保育環境評価スケール②乳児版』（2004）は、ECERS-R（1998）の日本語訳『保育環境評価スケール①幼児版』（2004）とともに日本の保育現場でも使われ、版を重ねました。訳者である私は、スケールを用いて午前中に約3時間の共同観察を行い、午後は結果の検討を行うという形のコンサルティングを十数年にわたり続けてきました。

2015年、アメリカでECERS-Rは大きく改訂され、ECERS-3として出版されました。2017年にはその日本語訳『新・保育環境評価スケール①3歳以上』を出版することができました。本書はそれに続く『新・保育環境評価スケール②0・1・2歳』です。

2017年告示の『保育所保育指針』では、乳児・1歳以上3歳未満児の保育に関する記載の充実が図られました。保育所保育指針解説書（2018）には、次のように記載されています。

乳児から2歳児までは、心身の発達の基盤が形成される上で極めて重要な時期である。また、この時期の子どもが、生活や遊びの様々な場面で主体的に周囲の人やものに興味をもち、直接関わっていきこうとする姿は、「学びの芽生え」といえるものであり、生涯の学びの出発点にも結び付くものである。

ITERS-Rの大幅な改訂の背景には、0・1・2歳の時期本来の重要性にとどまらず、learning（学び）のスタートの時期としての重要性に注目するようになった国際的な潮流があります。ITERS-3では幼い子どもと保育者の言語的な関わりの重要性を以前より強く打ち出しています。本書の項目、指標を丁寧に読み込んでいくと、指針解説書に示された「学びの芽生え」を支える人的環境、物的環境の具体的なありようが理解できるのではないかと思います。ITERS-3の内容は、日本の乳幼児保育がめざそうとする方向とかなりの部分重なるのではないのでしょうか。

このたび、『新・保育環境評価スケール①3歳以上』と同様、同志社女子大学より出版助成金を得て、本書を刊行することができました。ここに記して深く感謝の意を表します。

2018年7月

埋橋玲子